



ムダ(と思われること)をたくさんするということ

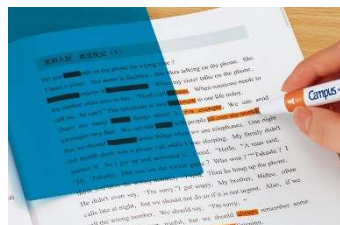
校長 笠原道宏

現代に生きる私たちは、知りたい情報をすぐにインターネット等で手に入れることができます。一昔前まで、図書館に行ったり本屋で書籍を購入したりして調べていた時間は、ものすごく短時間で済むようになりました。

こうした社会の変化により、効率が求められ、限りある時間の中で最大限の成果を求められるようになってきています。教育も同じで、子どもたちを一直線に大人にしようとする考え方が広がってきていると感ずることがあります。でも、人が成長するということはそんなに簡単ではないと、人材育成や子育てを経験された方なら誰もが感ずることでしょう。

以前、長岡市に勤務した際に当時の大西厚生教育長(1991-2000)が「効率のよい勉強のやり方」について、次のように話されていました。

『効率よく勉強する方法はないかと、長岡高校の生徒に「うまい勉強のやり方とはどんな方法か？」と聞いてみた。すると、その生徒は「勉強のやり方は勉強した人にしか分かりません。」と即答した。なるほどと思った。』



私自身は受験の時、暗記ペンと字が消えるシートで勉強をしましたが、それを自分の息子や娘たちにやらせたところ、とても不評で誰も取り入れませんでした。自分自身がいろいろ試した末に、最も良いと感ずる方法にたどり着くことが、結局は最も効率的ということなのだと感ずます。

効率を優先する視点から見れば、「いろいろ試す」という時間はとてもムダな時間のように見えてしまいますし、そんなに時間をかけずに、うまくいくやり方を教えてもらって、短時間で力をつけてほしいと思う考えも分からなくもありません。

でも、ムダに見えるかもしれない「問いに直面し、いろいろ曲がりくねって考えた末に答えを導き出す過程」は、絶対必要な経験であり、発達段階に応じて、ぜひ子どもたちにたっぷりと味わってほしい時間でもあります。そしていつか、自分の成長を振り返った時に、がんばったことの中にムダなことなど何一つなかったことを感ず取ってほしいのです。

荒浜小学校では、簡単に成功体験に導くのではなく、子ども自身が自分を知り、自分に合う学び方を発見していくことを支えていきたいと考えています。こんなムダだよな…と感ずる心に、それはいつか糧になることを語りかけ、成長を促していきたいと思っています。御支援をよろしくお願いいたします。